

Step 1

親方と三吉、それぞれの人物像をまとめよう。

親方の人物像

根拠となる本文

一言で言うと

仕事に誇り

・わしらも命を懸けて
車を作ってるんや。
・車大工は命を削りながら
自分の命を削ってるんや。

・半人前の三吉にも
てつどうてもらおうか。
・きっと腕のええ車大工
やったんやろなあ。

弟子思い

相手をよく見ている

・親方に怒られたとき
は、しょんぼりしてい
るのに限る。

・あ、すんまへん。
・慌てて、「ち」の字を
手でごしごしこすった。

素直で無邪気

一言で言うと

せっかち

・答えるより早く、次
の言葉が飛んできた。
・ほんならなんや。は
よう、言うてみい。

・しょんぼりすればす
るほど、親方の怒鳴
り声は小さくなってい
く。

おひとよし

そそっかしい

・表に彫るやつがあ
るか。
・それに、こりや、間
違えてるやないか。

・自分がまかされたカ
シの木の本の矢が、
白く輝いて見えた。

仕事にやりがい

根拠となる本文

Step 2

それぞれの人物像を踏まえて、親方が三吉どちらかの立場で、三吉が車の矢に自分の名前を彫った時のことを日記に書こう。

根拠となる本文

根拠となる本文

親方の例ー夜中にしょんべんに起きたら仕事場の明かりがついていた。何事かと思って見に行くと、三吉がいるではないか。思わず「物騒やないか!」と怒鳴りつけた。何をしているかと尋ねたら、自分の作った車の矢に名前を彫っていると云う。見ると、矢の表に彫っているどころか、自分の名前も間違えている。ほんまにそそっかしいやつだ。けれど、矢の仕上がりは上々だ。三吉には常々車大工の誇りについて話している。きっと将来は立派な車大工になるやろう。

三吉の例ーついに任されていた車の矢が仕上がった!どこから見てもいい出来上がりだ。親方が寝ているうちに名前を彫っておこう。でも、焦ってうまくいかなかったうちに親方に見つかって怒鳴られた。しかも、矢の表に掘っているばかりか、名前も間違えていることもわかってしまった。それでも親方に促されて最後まで名前を彫った。何度も聞いた車大工の誇りについて聞かされながら…。将来は、親方みたいに立派な車大工になってやるぞ!